

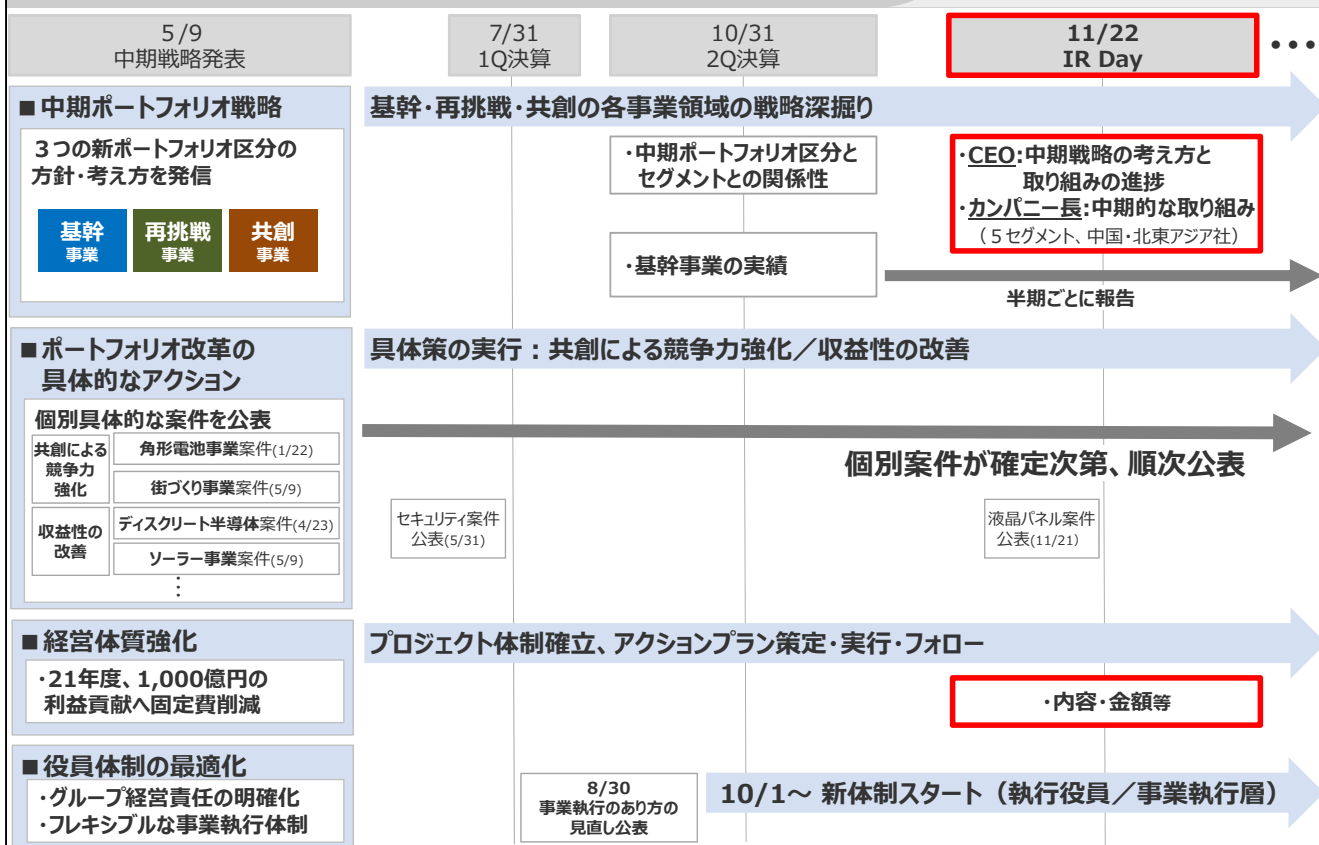
Panasonic IR Day 2019

開会にあたって

2019年11月22日
 パナソニック株式会社
 取締役 常務執行役員
 CFO 梅田 博和



中期戦略に関する進捗の発信について



中期的な取り組みについて



*IS：インダストリアルソリューションズ、CNS：コネクティッドソリューションズ、AM：オートモーティブ、AP：アプライアンス、LS：ライフソリューションズ

本日のスケジュール

スケジュール	内容		説明者
09:20~10:00	中期戦略の考え方と取り組みの進捗		津賀 一宏
(5分間)	(休憩)		
10:05~10:45	19年度下期および 中期的な取り組み	インダストリアルソリューションズ (IS)	坂本 真治
(10分間)		(休憩)	
10:55~11:35		コネクティッドソリューションズ (CNS)	樋口 泰行
(10分間)		(休憩)	
11:45~12:25		オートモーティブ (AM)	楠見 雄規
(45分間)		(昼食)	
13:10~13:50		アプライアンス (AP)	品田 正弘
(10分間)		(休憩)	
14:00~14:40		ライフソリューションズ (LS)	道浦 正治
(10分間)	(休憩)		
14:50~15:25	戦略地域セッション	中国・北東アジア社	本間 哲朗

Panasonic

本プレゼンテーションには、パナソニックグループの「将来予想に関する記述」に該当する情報が記載されています。本プレゼンテーションにおける記述のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、かかる将来予想に関する記述に該当します。これら将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報に鑑みてなされたパナソニックグループの仮定および判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスクおよび不確実性ならびにその他の要因が内在しており、それらの要因による影響を受けるおそれがあります。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、かかる将来予想に関する記述に明示的または黙示的に示されるパナソニックグループの将来における業績、経営結果、財務内容に関してこれらと大幅に異なる結果をもたらすおそれがあります。パナソニックグループは、本プレゼンテーションの日付後において、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。投資家の皆様におかれましては、金融商品取引法に基づく今後の提出書類およびその他の当社の行う開示をご参照下さい。

なお、上記のリスク、不確実性およびその他の要因の例としては、次のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、当社の有価証券報告書等にも記載されていますのでご参照下さい。

- ・米州、欧州、日本、中国その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費および企業による設備投資の動向
- ・多岐にわたる製品・地域市場におけるエレクトロニクス機器および部品に対する産業界や消費者の需要の変動
- ・ドル、ユーロ、人民元等の対円為替相場の過度な変動により外貨建てで取引される製品・サービスなどのコストおよび価格が影響を受ける可能性
- ・資金調達環境の変化等により、パナソニックグループの資金調達コストが増加する可能性
- ・急速な技術革新および変わりやすい消費者嗜好に対応し、新製品を価格・技術競争の激しい市場へ遅滞なくかつ低コストで投入することができない可能性
- ・他企業との提携または企業買収等で期待どおりの成果を上げられない、または予期しない損失を被る可能性
- ・パナソニックグループが他企業と提携・協調する事業の動向（BtoB（企業向け）分野における、依存度の高い特定の取引先からの企業努力を上回る価格下落圧力や製品需要の減少等の可能性を含む）
- ・多岐にわたる製品分野および地域において競争力を維持することができなくなる可能性
- ・製品やサービスに関する何らかの欠陥・瑕疵等により費用負担が生じる可能性
- ・第三者の特許その他の知的財産権を使用する上での制約
- ・諸外国による現在および将来の貿易・通商規制、労働・生産体制への何らかの規制等（直接・間接を問わない）
- ・法規制に起因した制約・費用・法的責任の発生または法令遵守のための内部統制が不十分である可能性
- ・パナソニックグループが保有する有価証券およびその他の金融資産の時価や有形固定資産、のれん、繰延税金資産などの非金融資産の評価の変動、その他会計上の方針や規制の変更・強化
- ・ネットワークを介した不正アクセス等により、パナソニックグループシステムから顧客情報・機密情報が外部流出する、あるいはネットワーク接続製品に脆弱性が発見され、多大な対策費用負担が生じる可能性
- ・地震等自然災害の発生、感染症の世界的流行、サプライチェーンの寸断、その他パナソニックグループの事業活動に混乱を与える可能性のある要素

(参考) 中期ポートフォリオ区分と開示セグメントとの関係性

ポートフォリオ区分	事業領域	アプライアンス (AP)	ライフソリューションズ (LS)	コネクテッドソリューションズ (CNS)	オートモーティブ (AM)	インダストリアルソリューションズ (IS)
基幹事業	空間ソリューション	空調冷熱ソリューションズ、食品流通	ライティング、エナジーシステム*、パナソニック エコシステムズ	メディアエンターテインメント		
	現場プロセス			アビオニクス、プロセスオートメーション、モバイルソリューションズ、PSSJ		
	インダストリアルソリューション					システム、デバイス
再挑戦事業	車載機器				車載機器	
	車載電池				車載電池	
共創事業	家電	ホームアプライアンス、スマートライフネットワーク				
	住宅		ハウジングシステム、パナソニックホームズ			

注：「中国・北東アジア社」の売上・利益は主にAPセグメントとLSセグメントに、「US社」の売上・利益は主にAPセグメントとAMセグメントに含まれています。

* ソーラー事業は含まず